

国際共同研究シリーズ 5

第1回アジア太平洋安全保障ワークショップ

アジア太平洋諸国の 安全保障上の課題と 国防部門への影響

防衛省防衛研究所

国際共同研究シリーズ 5

第 1 回アジア太平洋安全保障ワークショップ

アジア太平洋諸国の安全保障上の 課題と国防部門への影響

防衛省防衛研究所

平成 22 年 10 月

目次

まえがき.....	1
第1章.....	3
インドネシア ― 安全保障の展望、国防政策と地域協力	
リザール・スクマ	
はじめに.....	3
インドネシアの安全保障上の課題 ― 国内治安、非伝統的及び対外的脅威.....	4
国防部門に対する含意 ― 政策、兵力構成及び装備調達.....	9
地域協力 ― 国防の第一線としての外交.....	22
おわりに.....	25
第2章.....	27
マレーシア ― 安全保障に関する展望と課題	
タン・シュエ・ムン	
はじめに.....	27
マレーシアの戦略的展望.....	29
安全保障上の課題 ― 国家主権と人間の安全保障.....	30
不況下における防衛予算確保.....	37
おわりに.....	38
第3章.....	41
フィリピン ― 安全保障に関する2010年の展望	
ノエル・モラーダ	
はじめに.....	41
安全保障上の課題.....	41
自然災害 ― 2009年の大洪水被害からの教訓.....	50
人間の安全保障の課題 ― 貧困緩和と世界経済危機の影響.....	51
フィリピン国防部門への含意.....	56
おわりに.....	58
第4章.....	61
シンガポール ― 歴史、地理、人口動態は不変なのか？	
ラム・ペン・ア	
はじめに.....	61
シンガポールの戦略的風土.....	64
歴史的背景.....	64

人口動態と地理	66
最近の傾向 ― 研究開発、国防調達、海外訓練	68
おわりに	71
第5章	73
フィジー諸島 ― 安全保障上の課題と国防政策問題	
サンドラ・タート	
はじめに	73
現在の安全保障上の課題	74
安全保障上の課題と国防態勢との関係	84
今後の展望と地域的な観点	90
第6章	93
タイ ― 安全保障の展望、対外関係のトレンド、国内の危機	
ティティナン・ボンスヒラ	
はじめに	93
ビルマ／ミャンマーに関する安全保障上の懸念	94
タイ・カンボジア関係及び国境をめぐる緊張	97
テロ及びマレー系イスラム教徒による南部での反乱活動	100
その他の脅威認識	102
タイ防衛部門への示唆	102
第7章	105
カンボジア ― 安全保障上の課題と防衛政策への含意	
チャップ・ソサリット	
はじめに	105
カンボジア軍の歴史的背景	106
主たる安全保障上の課題	108
国防政策への含意	113
今後の方向性	115
第8章	117
ベトナム ― 国家安全保障への新たなアプローチと国防・外交政策への影響	
グエン・ザー・トゥン	
はじめに	117
安全保障上の課題と政策への影響	118
安全保障上の新たな脅威	124
国防の前面に立つ外交 ― 戦略の継続	128
結びにかえて ― より大きな文脈での国防政策	131

第9章	135
ミャンマー ― 国家および国軍の安全保障上の課題	
ティン・モン・モン・タン	
はじめに	135
軍部の国家安全保障観と脅威への認識	137
近代的で強力なミャンマー国軍（MAF）	141
国軍の指導的役割の制度化	149
おわりに ― 盲点はどこに？	151
第10章	155
中国の安全保障上の課題 ― 優先課題と政策への含意	
楊 健	
はじめに	155
国内治安上の課題	156
対外的安全保障上の課題	159
台湾問題	161
安全保障上の優先課題	163
中国の軍近代化から得られる含意	166
地域への含意	170
おわりに	174
第11章	177
日本の安全保障上の課題	
千々和 泰明	
はじめに	177
日本の安全保障上の課題	178
日本の防衛政策、部隊編成、装備調達	180
日本の防衛政策とアジア太平洋における地域協力の展望	184
おわりに	189
執筆者紹介	191

まえがき

本報告書は、2010年1月21日～22日に防衛研究所が主催した第1回「アジア太平洋安全保障ワークショップ」の成果である。本ワークショップは、昨年度まで行われてきた「東南アジア諸国との防衛研究交流」を発展的に継承し、その対象をアジア太平洋地域に広げたもので、域内10カ国より著名な安全保障研究者を招へいし、各国が直面する安全保障上の重要課題について活発な報告・討議を行った。その成果を「国際共同研究シリーズ」として刊行する。

近年、アジア太平洋地域にはアジア太平洋経済協力（APEC）、ASEAN 地域フォーラム（ARF）、東アジア首脳会議（EAS）など地域枠組み構築において顕著な進展が見られるものの、欧州に見られるような安全保障共同体は存在しない。また、伝統的な安全保障問題に加え、テロや大規模災害、感染症などの非伝統的な安全保障上の課題についても関心が高まっている。本報告書をつうじて、各国を取り巻く安全保障環境や直面する重要課題についての知見が共有され、我が国を含むアジア太平洋諸国間の相互理解が促進されることを期待する。また、我が国が地域で果たすべき安全保障上の役割について考える一つの有益な視座を提供できたとすれば幸いである。

本報告書の執筆者はリザール・スクマ（インドネシア担当、敬称略）、タン・シュー・ムン（マレーシア担当）、ノエル・モラーダ（フィリピン担当）、ラム・ペン・ア（シンガポール担当）、サンドラ・タート（フィジー担当）、ティティナン・ポンスヒラ（タイ担当）、チャップ・ソサリット（カンボジア担当）、ゲエン・ヴァー・トゥン（ベトナム担当）、ティン・モン・モン・タン（ミャンマー担当）、楊健（中国担当）、千々和泰明（日本担当）である。なお、ここに表明されている見解はすべて個人のものであり当研究所あるいは執筆者が所属する機関の見解を代表するものではないことをお断りする。

2 アジア太平洋諸国の安全保障上の課題と国防部門への影響

最後に、本ワークショップに参加され、報告書の作成に尽力いただいた執筆者各位、並びに本シンポジウムの企画・運営に積極的に取り組まれた関係各位に対し改めて謝意を表します。

平成22年（2010年）10月
防衛研究所研究部上席研究官
片原 栄一